

農作物病害虫発生現況情報（9月） りんご編

1 斑点落葉病

- (1) 9月後半の巡回調査のふじでの発生園地率は71.0%（平年68.1%）で、平年並だった（図1）。
 (2) 発生度は8月に増加したが、9月の増加は緩慢となった（図2）。

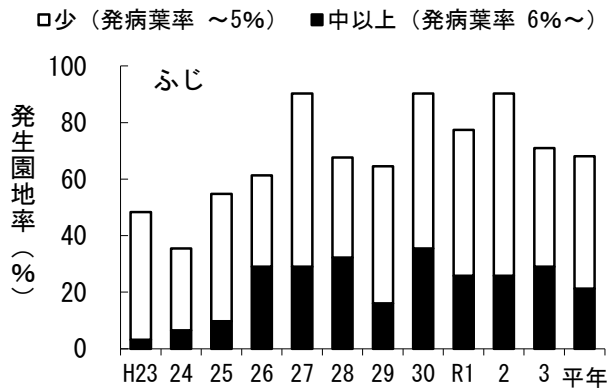


図1 斑点落葉病の発生園地率の推移 (ふじ、9月後半、徒長枝全葉)

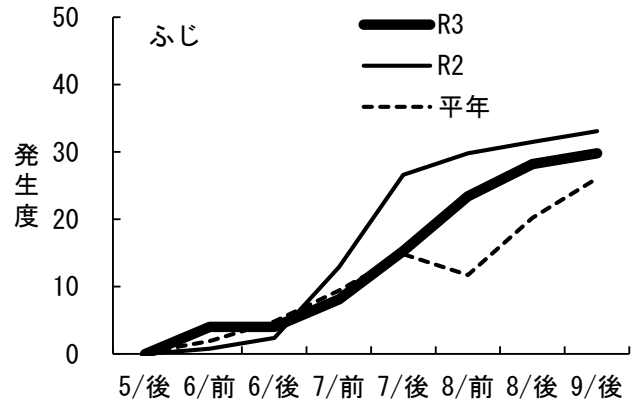


図2 斑点落葉病の時期別発生度の推移 (ふじ)
 ※「発生度」= (4A+3B+2C+D) × 100 / (調査園地数 × 4)、
 A: 発病葉率21%~、B: 11~20%、C: 6~10%、D: 1~5%の園地数

2 褐斑病

- (1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は45.2%（平年38.1%）で、平年並だった（図3）。
 (2) 9月の発生度は平年並に増加した（図4）。

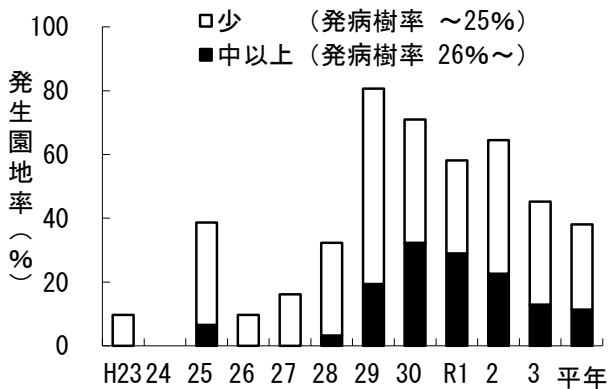


図3 褐斑病の発生園地率の推移 (9月後半)

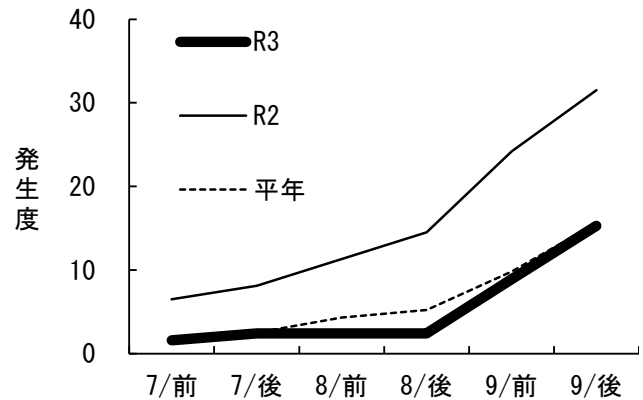


図4 褐斑病の時期別発生度の推移
 ※「発生度」= (4A+3B+2C+D) × 100 / (調査園地数 × 4)、
 A: 発病樹率76%~、B: 51~75%、C: 26~50%、D: 1~25%の園地数

3 黒星病

- (1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は、葉は19.4%（平年5.8%）、果実は16.1%（平年3.5%）で、いずれも平年より高かった（図5）。

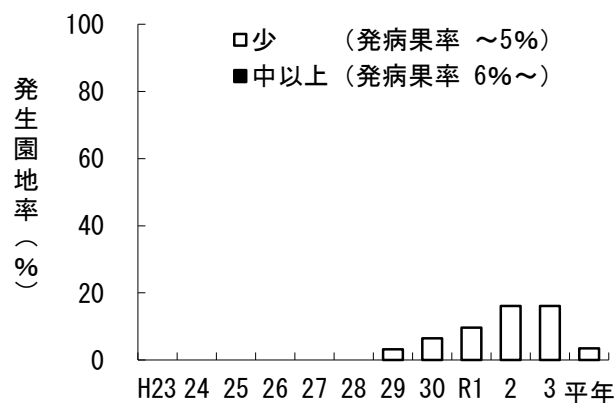
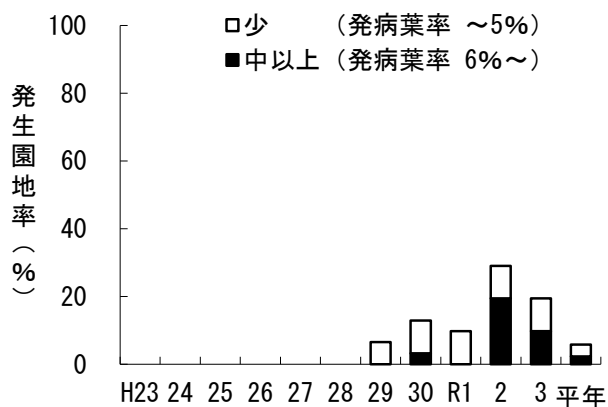


図5 黒星病の発生園地率の推移 (9月後半、左：徒長枝葉、右：果実)

4 果実病害

- (1) 輪紋病の9月後半の巡回調査での発生園地率は3.2% (平年10.3%) で、平年よりやや低かった (図6)。
- (2) 炭疽病の9月後半の巡回調査での発生園地率は6.5% (平年12.9%) で、平年よりやや低かった (図7)。
- (3) すず点病の9月後半の巡回調査での発生園地率は6.5% (平年4.5%) で、平年並だった (図8)。
- (4) すず斑病の9月後半の巡回調査での発生は、確認されなかった (平年1.0%、図9)。
- (5) 黒点病の9月後半の巡回調査での発生は、確認されなかった (平年10.0%、図10)。

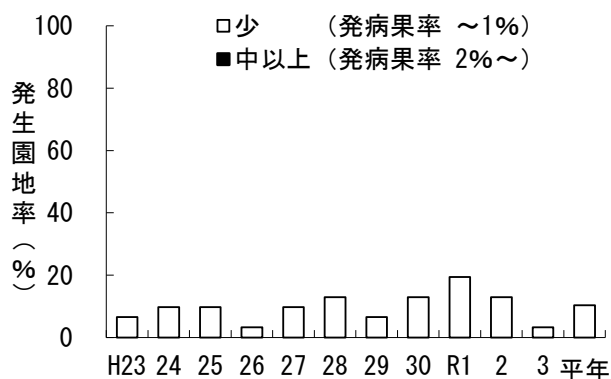


図6 輪紋病の発生園地率の推移 (9月後半)

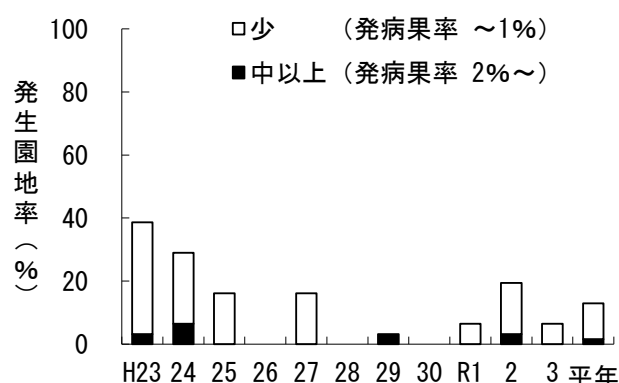


図7 炭疽病の発生園地率の推移 (9月後半)

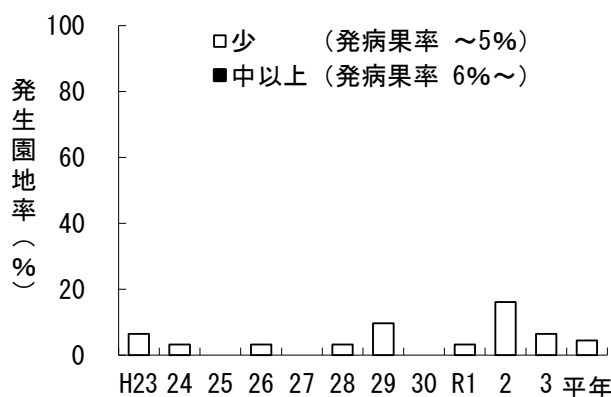


図8 すず点病の発生園地率の推移 (9月後半)

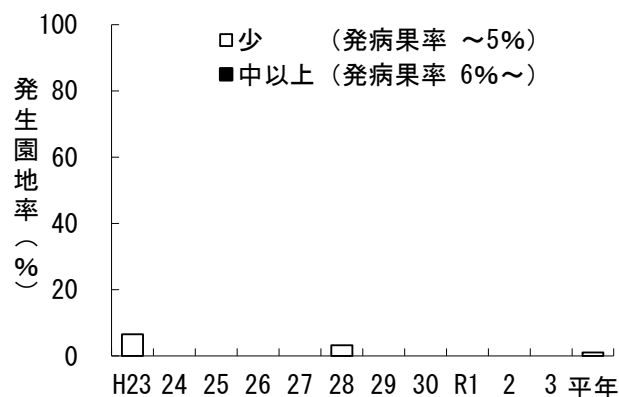


図9 すず斑病の発生園地率の推移 (9月後半)

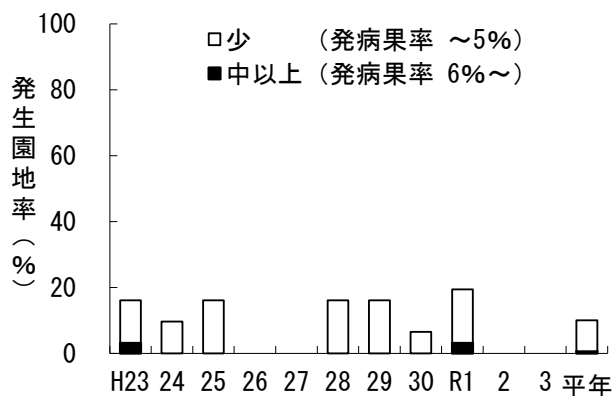


図10 黒点病の発生園地率の推移 (9月後半)

5 ハダニ類

- (1) 9月後半の巡回調査での目通りの発生園地率は、ナミハダニは16.1% (平年17.7%) で平年並、リンゴハダニは12.9% (平年4.8%) で平年より高かった (図11)。
- (2) 時期別発生園地率は、ナミハダニは7月後半から平年より高く推移したが9月で平年並になり、リンゴハダニは7月前半から平年より高く推移している (図12)。

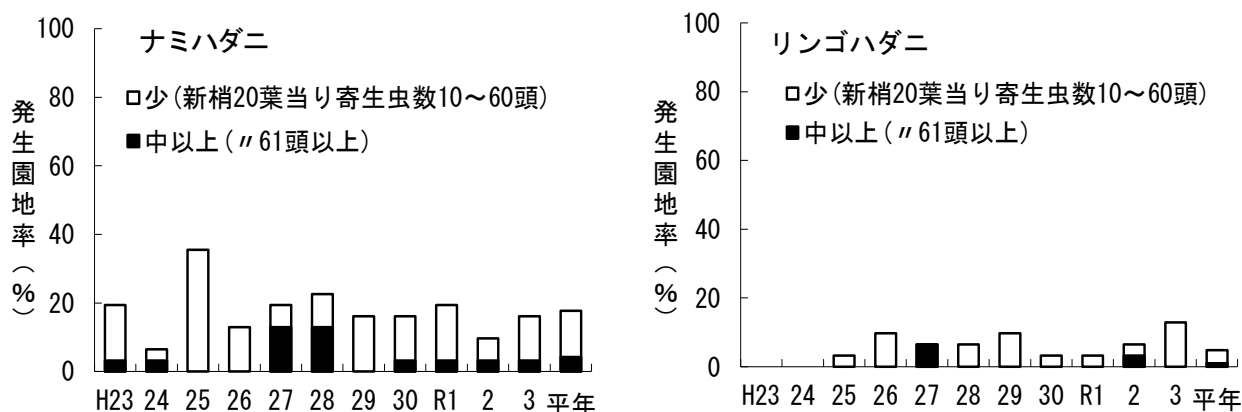


図11 ハダニ類の発生園地率の年次推移 (9月後半、目通り、左：ナミハダニ、右：リンゴハダニ)
(10頭未満/新梢20葉 (10樹) は発生無しの扱い)

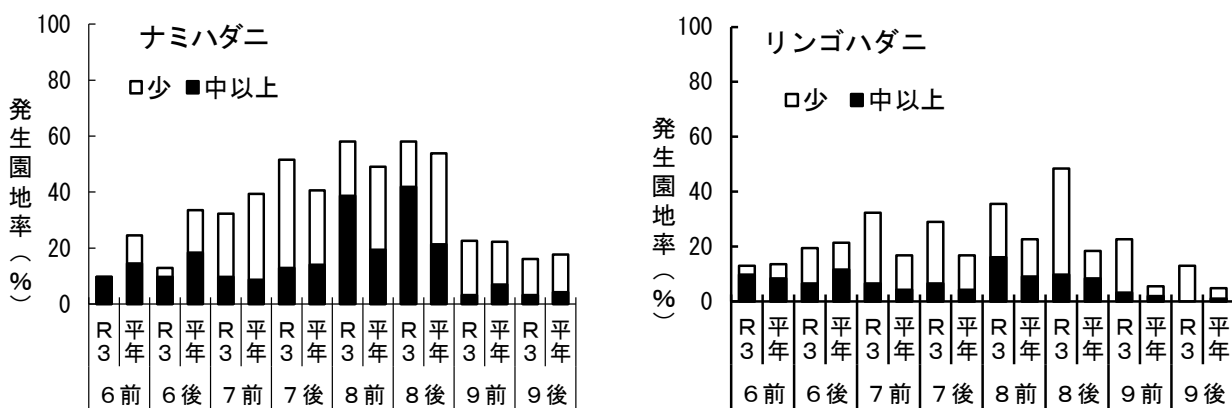


図12 ハダニ類の時期別発生園地率の推移 (6月~9月、目通り、左：ナミハダニ、右：リンゴハダニ)

6 ギンモンハモグリガ

(1) 9月後半の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年 19.0%、図 13）。

7 シンクイムシ類

(1) 9月後半の巡回調査での発生園地率は 12.9%（平年 6.8%）で、平年よりやや高かった（図 14）。

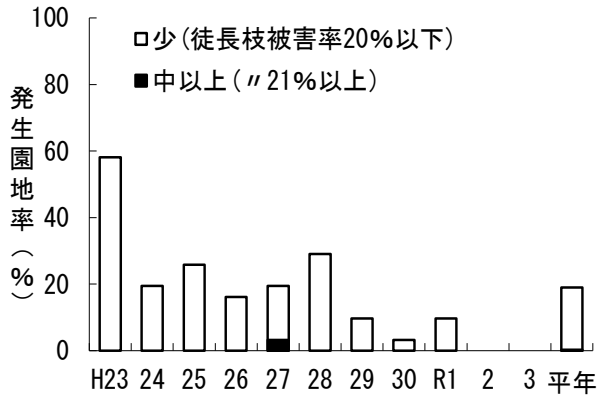


図 13 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移 (9月後半)

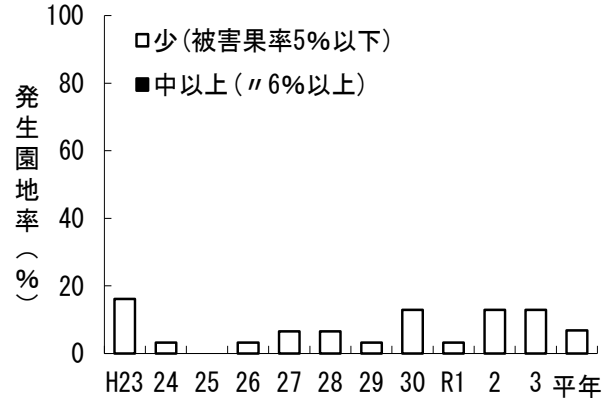


図 14 シンクイムシ類による被害果発生園地率の年次推移 (9月後半)

8 果樹カメムシ類

- (1) 9月後半の巡回調査での被害果の発生園地率は 22.6%（平年 13.9%）で、平年よりやや高かった（図 15）。
- (2) クサギカメムシの予察灯への誘殺数は、8月第1～2半旬にピークが見られ、9月は平年を下回った。年間誘殺頭数は、盛岡市川目、北上市更木ともに平年並であった（図 16）。
- (3) チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺数は、7月第3～5半旬にピークがみられた。年間誘殺頭数は、基準圃で平年並、盛岡市川目、北上市更木、一関大東町で平年より少なかった（図 17）。

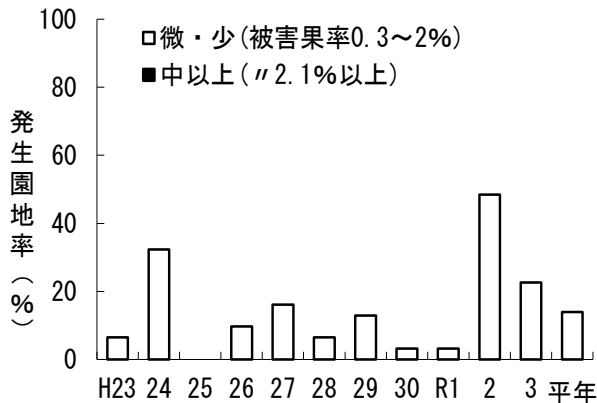


図 15 果樹カメムシ類による被害果発生園地率の年次推移 (9月後半)

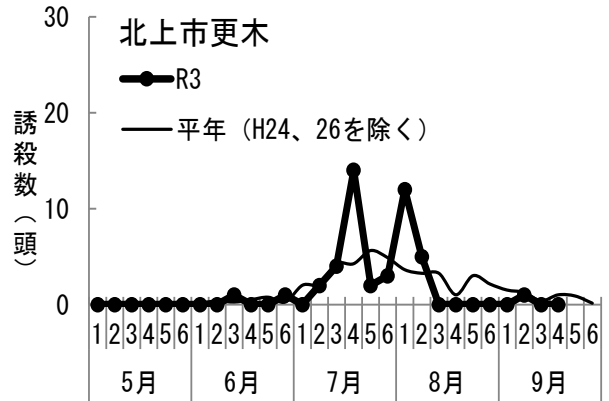
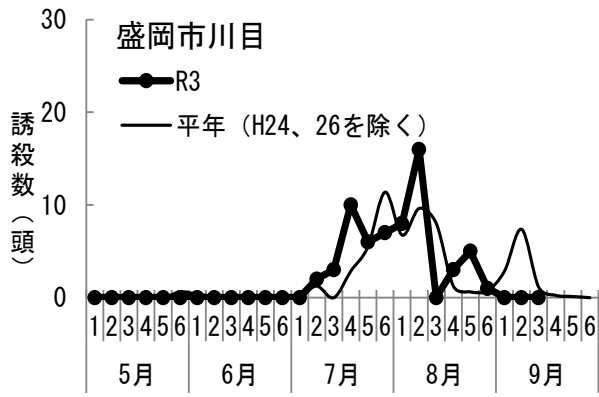


図16 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況 (左：盛岡市川目、右：北上市更木)
(H24：激発年、H26：多発年)

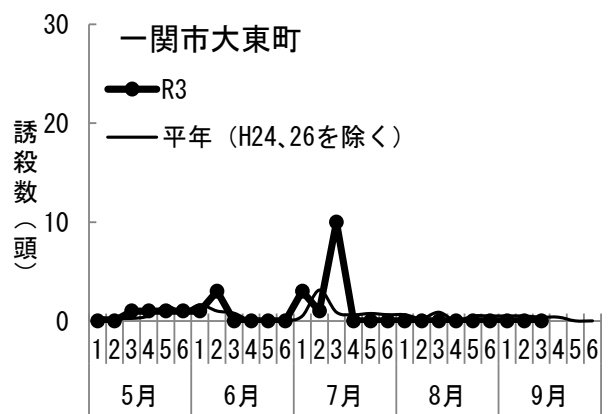
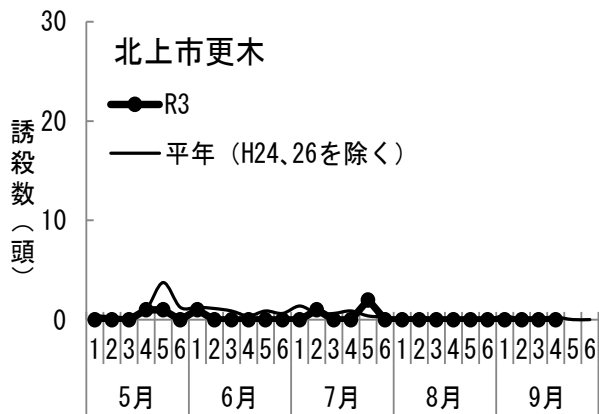
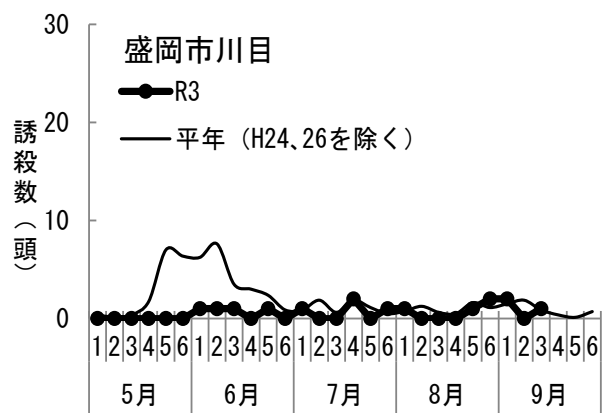
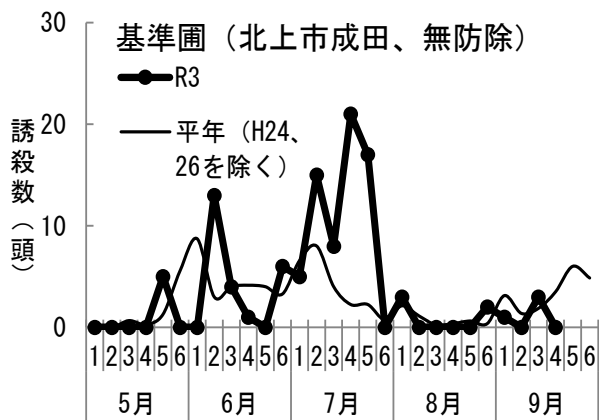


図17 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況
(左上：基準圃場 (北上市成田、無防除)、右上：盛岡市川目、左下：北上市更木、右下：一関市大東町)
(H24：激発年、H26：多発年)